夢風 News vol.100

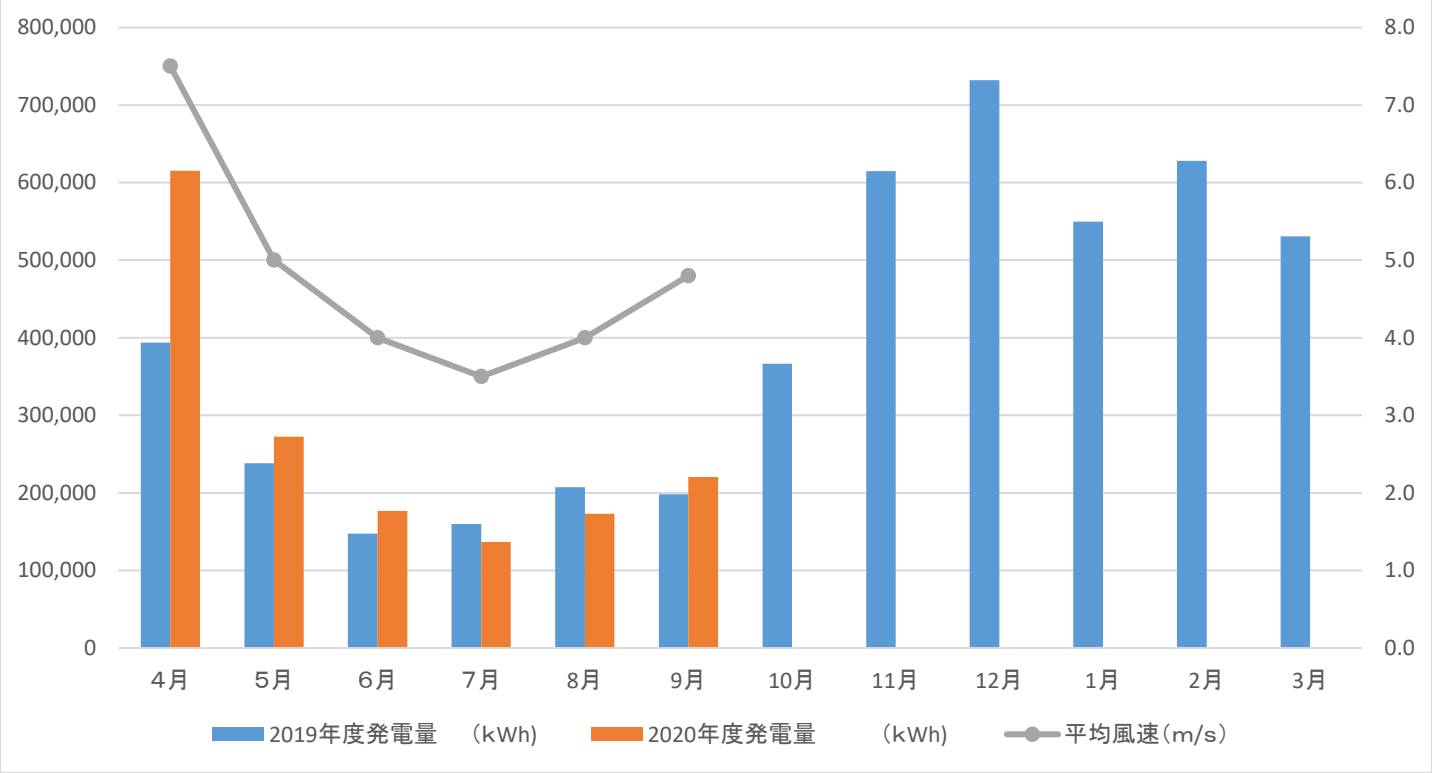
2020 年 10 月 15 日発行

秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩（代表理事） 編集責任者 鈴木伸予

○ 2020 年度発電実績



9月度運転状況について

○風況は、昨年と比べ0.6m/ｓ高い実績となりました。
○そのため発電量も前年比111.1%と高くなりました。
○9/10～16に、風車の8.5年次点検を実施しました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今年の鳥海山の初冠雪が10月17日に観測されました。
初冠雪は、例年より７日遅く、昨年より11日早くなっています。

	発電量（kWh）	平均風速（m/s）	稼働率（%）
4月	615,129	7.5	99.1
5月	272,629	5.0	94.0
6月	176,764	4.0	99.0
7月	136,722	3.5	99.6
8月	173,246	4.0	91.4
9月	220,401	4.8	92.5
10 月			
11 月			
12 月			
1月			
2月			
3月			

生活クラブでんきの生産者交流会に参加

9 月 30 日、生活クラブ神奈川の環境平和委員会主催のリモート生産者交流会「生活クラブでんきのコンセントの向こう側を見てみよう」が開催されました。「生活クラブでんき」の生産者として、生活クラブ風車「夢風」のグリーンファンド秋田と伊藤製麺所の伊藤実代表が参加しました。また、福島県の飯館電力より千葉訓道代表取締役も参加されました。

生活クラブ風車「夢風」のにかほチームの発表の様子を報告します。にかほチームは、横浜北生活クラブ、横浜みなみ生活クラブ、湘南生活クラブが担当されました。

まず、昨年、にかほ市で理事研修を行った横浜みなみより「夢風」の動画も含めた紹介をいただきました。

次に、グリーンファンド秋田より、にかほ市に風車を立てる時から、大事にしたのはお互いの人と人との交流や特産品の共同購入ということ。にかほ市の特産品を夢風ブランドとして組合員が食べて応援することでエネルギーだけでない波及効果を産んできたことを紹介しました。

続いて夢風ブランド品「タラーメン」の生産者の伊藤製麺所の伊藤さんが生活クラブとの取り組みを紹介いただきました。「当初は開発の方向性等も全く見えていなかったのですが、私一人ではなくみんなで作り出すことの喜びのほうが大きかった。スープの試食も、メールでもやり取りはできるが、現地で直接会わなければ意義がないという生活クラブの姿勢が嬉しかったですねと、振り返りました。タラーメンの共同購入が始まって 4 年、デポーにかほフェアや工場見学で多くの組合員の方と交流を深め、生の声を聴く事ができました。組合員さんが、タラーメンやにかほの事を理解してくれている姿をみて、夢風ブランドに対する私の考え方も変わりました。また、交流の中で、たんぱく加水分解物（塩素分解法）を抜いたものを待ってるよという声を多くいただき、再開発を決めました。ただ、なかなか思うような味ができず一時は妥協も考えましたが、当初の開発の時に「おいしくなければ長く続かない」との言葉を思い返し再開発を続けました。そこで味の決め手となったのは、うまみ成分たっぷりの鱈の魚醤でした。そしてやっと新しいタラーメンができました。夢風ブランドを通じて風車「夢風」の電気を身近に感じて頂けたらと思います。

最後に、にかほチームのまとめを横浜北生活クラブよりいただきました。

タラーメンのスープがリニューアルされました

夢風ブランド品の伊藤製麺所の「タラーメン」は生活クラブ東京とスープの再開発を進めてきました。班個配は 11/9-13 の配達分から、デポーは 11 月供給から、再開発品へ切り替わります。

うまみ成分豊富な「鱈しょっつる」の配分量を増やし、まろやかで深みのあるスープに、もっちりとしたストレート麺ともよく合います。

再開発を担当した、生活クラブ東京の増田理事長は、「組合員の要望を受け「たんぱく加水分解物」の製法を、自主基準に沿って「酵素分解法」に変更しました。味を決める調味料や配合比にも試行錯誤を重ねました。生産者と組合員が互いに譲らずこだわって作り上げた納得の味です。」とコメントされています。

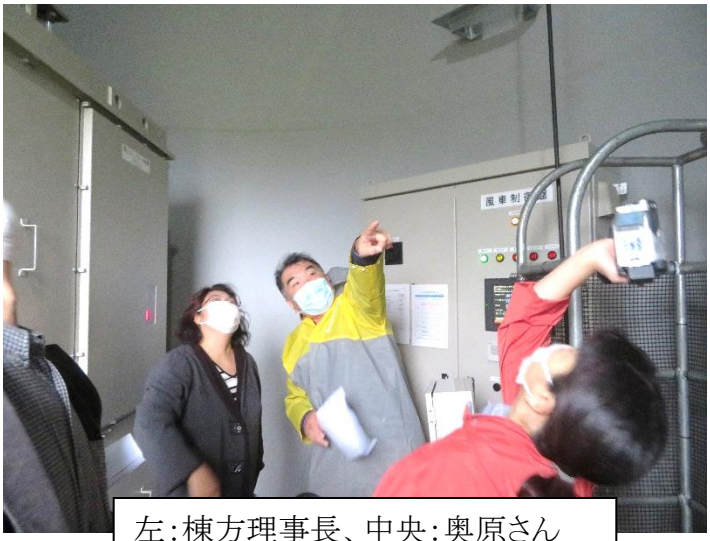
安心もおいしさもグレードアップしたタラーメンを是非ご賞味ください。

事務局リーダー研修実施報告　パート１

2020 年 10/23（金）24（土）、秋田県にかほ市と山形県遊佐町で生活クラブ首都圏リージョナル自然エネルギー推進 PJ 主催の首都圏事務局リーダー研修を実施しました。参加者は、事務局リーダー 11 名、グリーンファンド秋田の半澤彰浩代表理事（神奈川専務理事）、法政大学人間環境学部の西城戸誠教授、遊佐町共同開発米部会の池田恒紀事務局が参加しました。また、10/23 は、夢風の見学から院内風力発電建設予定地の見学まで、生活クラブ青森の棟方千恵子理事長、山崎雅子副理事長、河野顕専務理事が参加しました。

10 月 23 日の様子を紹介します。

① 生活クラブ風車「夢風」の見学



左:棟方理事長、中央:奥原さん

風車のオペレーションとメンテナンスを委託している㈱市民風力発電の奥原正好さんより、風力発電設備について説明をいただきました。

奥原さんは、生活クラブ風車の建設工事に携わっていただいた方で、現在は市民風力発電に所属されています。

この日は低気圧の通過で、雨で風が強く、風車の上では風速 10m/ｓと、風車は定格で発電をしていました。風車の羽はゆっくり回っているようですが、先端の速度は時速 200ｋｍとなっています。風車の基では、迫力のある風切り音を聞くことができました。

② 芹田自治会訪問と学習会

生活クラブ風車「夢風」の建設地の地主さんの芹田自治会を訪問し、竹花勲会長と荒川定敏元会長よりご挨拶をいただきました。

「メガソーラーの建設などでよく地元の反対の話を聞くが、生活クラブ風車の建設に関しては地元からの反対はなかったのか」という質問に対し、会長からは、「当初は、風力発電についての騒音や低周波などの不安が一人でもあれば建設をやめようと考えていた。生活クラブから丁寧に説明をいただいたこともあり、最終的には自治会の全員一致の賛成で建設を決めた」とのお話をいただきました。

竹花会長

続いて、映画おだやかな革命の生活クラブ版「未来を変える電気の共同購入」を視聴し、半澤専務理事より「生活クラブ風車を契機とした地域間連携の取り組みの成果」というテーマで学習会を行いました。

半澤専務

③ 院内風力発電建設予定地見学

院内建設予定地は、にかほ高原に向かう山側の標高 250mほどにあり、60mの風況観測塔を建て 2017 年 11 月より風向、風速の観測を行っています。

当日は、雨で足元が悪い中、棟方理事長、半澤専務、池田事務局が観測塔の下まで昇りました。（次号に続く）

コラム: 日本政府の 2050 年カーボンニュートラル宣言について

～自然エネルギー財団よりのコメントの抜粋～

菅義偉首相は、本日（10/26）の所信表明演説の中で、「2050 年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち 2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言した。英国、ドイツ、フランスなど欧州各国、カナダ、ニュージーランドなど他の先進国は、昨年までに既にこの目標を決めている。日本においても、昨年６月策定の「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」の中で決定すべきものであった。

完全な脱炭素化の鍵は、北海道、東北をはじめ各地域に存在する豊富な自然エネルギー資源を最大限に活用することであり、それを可能にする基幹送電網を構築することである。自然エネルギー財団では、太陽光発電、洋上・陸上風力発電を中心に、日本の脱炭素化を実現するエネルギー戦略の策定を進めている。

温室効果ガス排出を実質的にゼロにした日本は、脱炭素社会を実現するだけでなく、エネルギー自給率を大幅に高めエネルギー安全保障の向上した日本であり、年間 10 数兆円にも上る化石燃料の輸入を必要としない日本である。

2030 年の削減目標を引き上げ、高い自然エネルギー導入目標を掲げてこそ、今日の時点から、脱炭素化にむけたビジネスモデルの転換を加速し、エネルギー転換にむけた国内外の投資を呼び込むことができる。排出ゼロに向け、企業が新たな脱炭素ビジネスの展開を競いあい、自治体が脱炭素の地域づくりを進めれば、次の世代に持続可能な社会を引き継いでいくことができる。

日本政府の 2050 年カーボンニュートラル宣言が、本当に評価できるものかどうかは、2030 年削減目標を大幅に引き上げ、それに必要なエネルギー転換を打ち出すかどうかにかかっている。